



# 二俣川小だより

3月号

～笑顔いっぱい 友達いっぱい～

横浜市立二俣川小学校 令和6年2月26日



創立150周年

令和5年度、ありがとうございました。

校長 泉 太郎

令和5年度も残すところあと一月となりました。今年度は5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に分類され、教育活動が少しずつコロナ前の形にもどり、校舎建替え工事が始まり運動会以降、校庭が使えなくなるなど、学校を取り巻く環境が大きく変わった年度でもありました。特に校庭が使えなくなったことは、休み時間の室内での遊びの工夫や体育学習のカリキュラムの工夫で対応しましたが、やはり、思い切り体を動かすことができないことは、少なからず子どもたちの生活に大きな影響を及ぼしているように感じています。一方、今年度創立150周年を迎え、子どもたちの活動を主体とした温かい雰囲気にも満たした記念式典(150周年記念の会)や伝統の二小運動会や二小音楽会を4年振りに地域の方をお招きし実施できたことは明るい出来事でもありました。子どもたちは、日々の学習を積み重ね、様々な行事、活動を経験する中で、一人ひとりが自分のペースで確実に成長することができました。あと1カ月で6年生は卒業し中学校へと進学、1年生から5年生は進級します。子どもたちが新年度、新たな気持ちでスタートできるよう、各ご家庭におかれましては今年度一年間の成長を褒め、励ましていただければと思います。

## ☆「誰一人取り残さない教育」「質の高い教育」「持続可能な教育」

先日、大手新聞紙に一紙に次のような見出しを見つけました。「小中授業5分短縮」「学校の裁量時間拡大」文部科学省が検討を始めるという内容の記事でした。タブレット端末の導入やコロナ禍で進んだ教育活動の見直し、精選。そして、昨今課題となっている教員不足や教員志望者減の問題。教育を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。これからの教育を考えたとき、「誰一人取り残さない教育」「質の高い教育」が求められ、「持続可能な教育」であることが大切です。二俣川小学校でも教職員は150周年を迎え、新校舎で新たな一歩を踏み出す世代の教育について様々な検討をしていきます。例として、「適切な授業時間に合わせたカリキュラムの見直しや週の授業時数の見直し→週授業時数の削減」「各学年の発達段階や熱中症等気候を考慮した行事の適切な配置→5・6年生の宿泊行事の実施時期、目的地、活動内容の検討や4年生の宿泊行事の日帰り化への検討」「タブレットをより活用した授業→デジタル教科書、ドリルの導入やタブレットの持ち帰り、オンライン授業の導入」「物価・物資高騰に対応し学校配当予算をより効果的、効率的に使う→学校・学年だより等、学校からの配布物をメール配信のみとしペーパーレス化」「人権問題や個人情報保護への配慮→卒業アルバムの掲載項目の検討」などです。どれも現時点で決定したものではありませんが、二俣川小学校の子どもたちの学びをより充実させていくために、時間をかけ検討を進めていきます。

## ☆校舎建替え工事が進んでいます⑤



多くの重機が入り、杭の打設が始まり工事現場らしくなってきました。

屋上からカメラのパノラマ機能で撮ってみました。

令和5年度、保護者の皆様、地域の皆様の学校に対するご理解、ご協力、そして、温かな支援に心より感謝いたします。ありがとうございました。

教職員一同